

目的：専修学校における自己評価表を用いて、本校の組織的・継続的な教育活動等の改善を図る

- 目標：1. 評価項目から、評価の視点が分かる
 2. 自己の教育活動を振り返る
 3. 改善点が見いだされ、今後の教育活動に活かすことができる

評価期間 令和6年4月～令和6年9月

実施者 教員12名、事務4名 計 16名

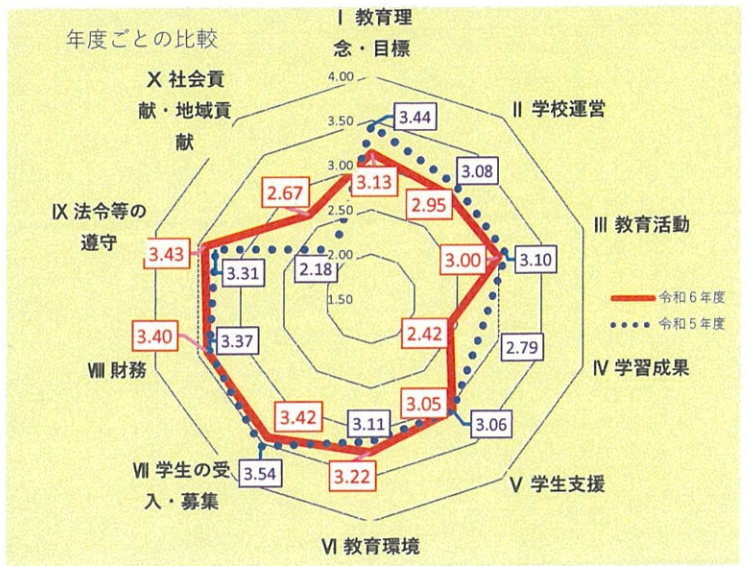
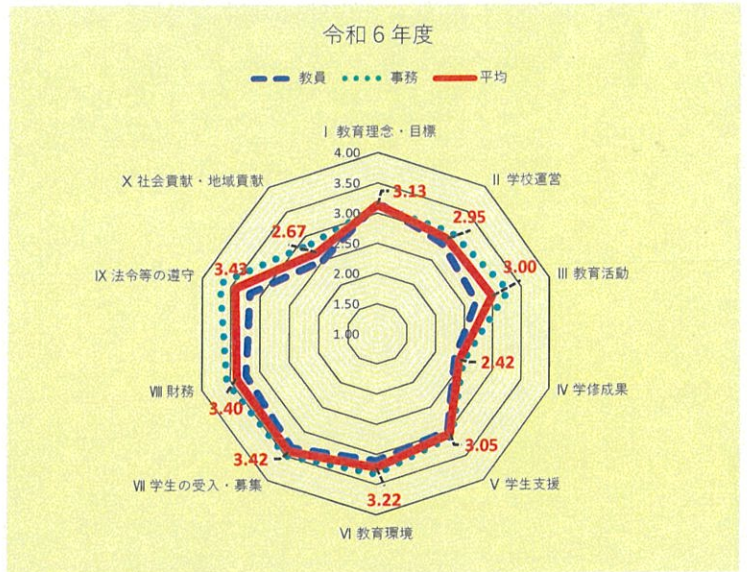
- 方法 1. 説明 令和6年10月の教務会にて
 2. 配布 令和6年10月の教務会にて
 3. 回収 令和6年10月28日(月)～31日(木)の間に 浅野事務課長に提出
 4. 結果 令和7年3月職員会で、結果を公表する

表1 集計結果の平均

項目	教員	事務	平均
I 教育理念・目標	3.17	3.10	3.13
II 学校運営	2.83	3.06	2.95
III 教育活動	2.72	3.29	3.00
IV 学修成果	2.35	2.50	2.42
V 学生支援	2.99	3.11	3.05
VI 教育環境	3.11	3.33	3.22
VII 学生の受入・募集	3.33	3.50	3.42
VIII 財務	3.23	3.56	3.40
IX 法令等の遵守	3.17	3.69	3.43
X 社会貢献・地域貢献	2.50	2.83	2.67

表2 年度ごとの比較

項目	令和5年度	令和6年度
I 教育理念・目標	3.44	3.13
II 学校運営	3.08	2.95
III 教育活動	3.10	3.00
IV 学習成果	2.79	2.42
V 学生支援	3.06	3.05
VI 教育環境	3.11	3.22
VII 学生の受入・募集	3.54	3.42
VIII 財務	3.37	3.40
IX 法令等の遵守	3.31	3.43
X 社会貢献・地域貢献	2.18	2.67



【II 学校運営】意思決定システムについては個々人の解釈が違い、評価するのが難しかった。用語や評価の基準を統一していく必要がある。

【IV 学習成果】3年課程に移行して2年目となる。卒業生が出ていない状況で就職や卒業生の評価等についてシステムができていないとの評価が多かった。3学年が揃う来年度に向けてシステムづくりが課題となっている。

【X 社会貢献・地域貢献】学生のボランティア活動については整備されていない状況である。学生のニーズをとらえながら整備していく必要がある。地域への貢献は、小学校との連携や町内会への協力等できることから実施している。